



ウミとシマの世界を見る眼

—オセアニア研究のこれまで、いま、そして、これから—

1977年の創立以来、日本オセアニア学会は人文科学、社会科学、自然科学の多岐に亘る会員の活動に支えられ、その研究成果の公開と国際的な学術交流に積極的に取り組んできました。2017年度に本学会創立40周年を迎えて、今般、その記念事業の一環として一般公開シンポジウムを開催いたします。本シンポジウムでは、日本のオセアニア研究がこれまでどのような貢献を成し、さらに今後どのような貢献を成し得るのかを検討し、ウミとシマの存在を鍵に世界の在り方を捉える新たな視座について議論します。

プログラム

司 会：棚橋 訓 (お茶の水女子大学教授)

開会の辞：会長 山本真鳥 (法政大学教授)

趣旨説明：棚橋 訓

パート1 | 考古／先史から見る

山口 徹 「オセアニア島嶼の歴史生態学：先史と植民地期の架橋」

(慶應義塾大学教授)

小野林太郎 「地中に遺された海と島世界の人類史：オセアニア考古学の特徴と島研究への貢献」

(東海大学准教授)

パート2 | 人類生態から見る

大塚柳太郎 「私にとってのオセアニア研究とオセアニア学会」

(一般財団法人自然環境研究センター理事長、東京大学名誉教授)

古澤拓郎 「グローバル化時代のオセアニア地域研究と人類生態学」

(京都大学准教授)

パート3 | 社会／言語／文化から見る

吉岡政徳 「「辺境としてのオセアニア」を抜け出すことはできるか：文化人類学とオセアニア研究」

(放送大学兵庫学習センター客員教授、神戸大学名誉教授)

菊澤律子 「オセアニア言語研究の過去（これまで）と未来（これから）」

(国立民族学博物館准教授)

深山直子 「植民地主義に抗するオセアニア：先住民による文化の復興と創造へのまなざし」

(首都大学東京准教授)

ディスカッサント1 沖縄のシマから見る眼 松島泰勝 (龍谷大学教授)

ディスカッサント2 歴史を見る眼 須藤健一 (堺市博物館長、国立民族学博物館名誉教授)

質疑応答

閉会の辞：会長 山本真鳥

一般公開
参加費無料

開催日 | 2018年 **3月21日** [水] [春分の日]

時間 | 午後1時～午後4時

会場 | 沖縄県立博物館・美術館講堂 (沖縄県那覇市おもろまち3-1-1)
沖縄都市モノレールゆいレール おもろまち駅下車 徒歩10分

交通アクセス | <http://okimu.jp/guide/access/>

後援 | 沖縄美ら島財団 沖縄県立芸術大学附属研究所 沖縄国際大学南島文化研究所
沖縄文化協会 地域研究コンソーシアム (JCAS) 日本文化人類学会
明治大学島嶼文化研究所 琉球大学国際沖縄研究所

本シンポジウムは、公益信託澁澤民族学振興基金平成29年度民族学振興プロジェクト助成の助成を受けて実施されます。

【本シンポジウムに関する問い合わせ先】：棚橋 訓 tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp